



京都御所散策と迎賓館見学の報告

今回は古都の歴史文化を映し出す**御所**を散策し、海外からの賓客を心込めてお迎えするために日本の伝統技能の粋を集めて造られた**迎賓館**を見学しました。（担当 B グ 案内 池田、記録 秦、写真 秦 権野）

京都御所

平安京の天皇の住まい(内裏)は現在の御所から 1.7 キロ西にありました。南北朝時代の火災時に土御門東洞院殿(現在の御所の位置にあった)を仮の内裏としました。それ以降、明治維新に至るまで歴代天皇はここを住居としました。その間、幾度も火災に見舞われましたがその都度再建され、敷地も拡大されました。

京都迎賓館

日本の歴史、文化を象徴する京都で海外からの賓客を迎える施設で平成 17 年(2005)4 月に開館した国の迎賓施設です。外観は日本の伝統的な住居である入母屋(いりもや)屋根と数寄屋(すきや)造りとなっています。建物や調度品には、数寄屋大工、左官、作庭、截金(きりかね)、西陣織や蒔絵(まきえ)、漆など、数多くの京都を代表する伝統技能において匠の技を用いています。

1:日 時 2024 年 6 月 27 日(木) 天気 くもり

2:集 合 地下鉄丸太町駅北改札口 10 時

3:参加者 21 人

4:行 程 10:00 丸太町駅発

10:10 閑院宮邸跡収納展示館入館 ガイドさんから
閑院宮家について、今上天皇の直系祖先である



ガイドさん説明(閑院宮邸跡)



京都御苑散策

ことなどの説明を受ける。またデジタル古地図マップで京都御苑、御所の変遷や公家の暮らしぶりをわかりやすく語ってくれた。展示館を出て御所を目指しながら御苑を散策。

11:10 御所入場 荷物の検査を受ける。敷地内を散策し、宮殿建築の歴史文化を伝える御車寄、紫宸殿、清涼殿などの御殿や庭園を見学。厳かなる暮らしを想像する。

12:00 中立売休憩所で昼食。レストランもあるので外国からの観光客が多かった。

12:50 迎賓館入館 リュックなどの荷物は預けスリッパを履いての見学。最上級の調度品に目を奪われる
とりわけ歓迎式典や晩餐会が行われる間の綴れ織りの見事な壁画や装飾、桐の間の京料理でもてなす漆塗りの 12m の座卓、座椅子はすばらしかった。ただ、床の段通には膝をつかない、廊下は真ん中を歩き、壁や調度品には触れないなどとガイドさんの注文はとても厳しかった。

14:50 解散 数人はさらに仙洞御所へ ※ あらためて日本の伝統文化のすばらしさに感動しました。



夕映えの間の壁画



桐の間の座卓・座椅子



森海の国からの一行 京都迎賓館 藤の間にて